

平成30年6月14日
空白地域解消推進協議会事例発表

多文化共生によるまちづくり

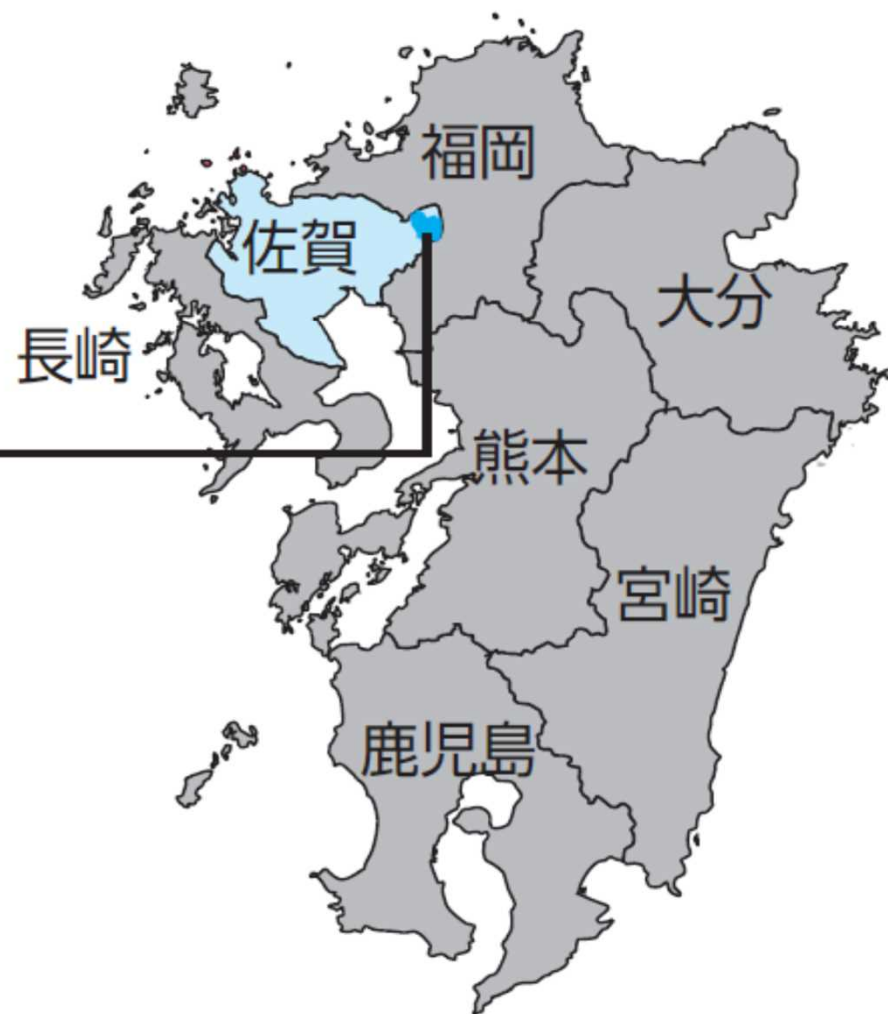
文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用した「とすにほんごひろば
～とりんす～」の活動を通して

佐賀県鳥栖市 市民環境部 市民協働推進課
男女参画国際交流係 下川 有美

鳥栖市の概要

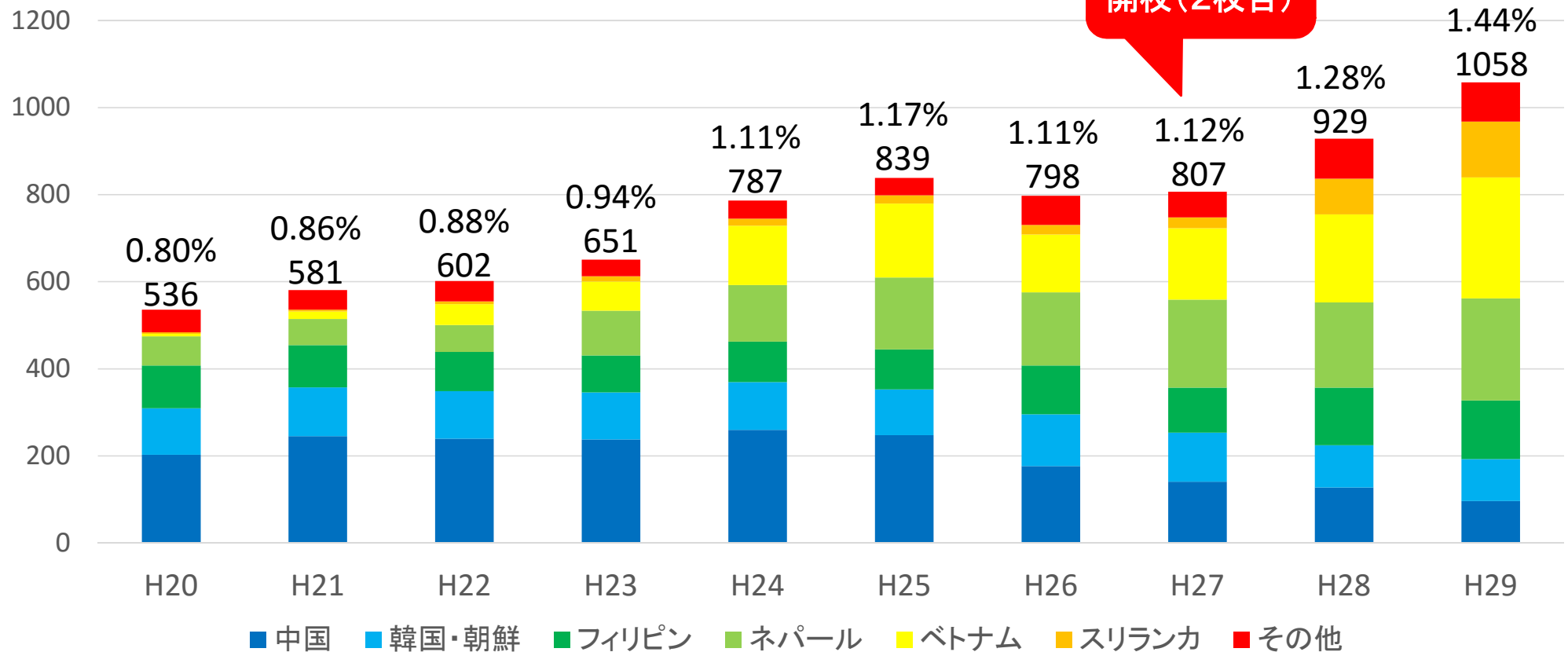


面積 71.72km²
人口 73,270人(H29.12月末)



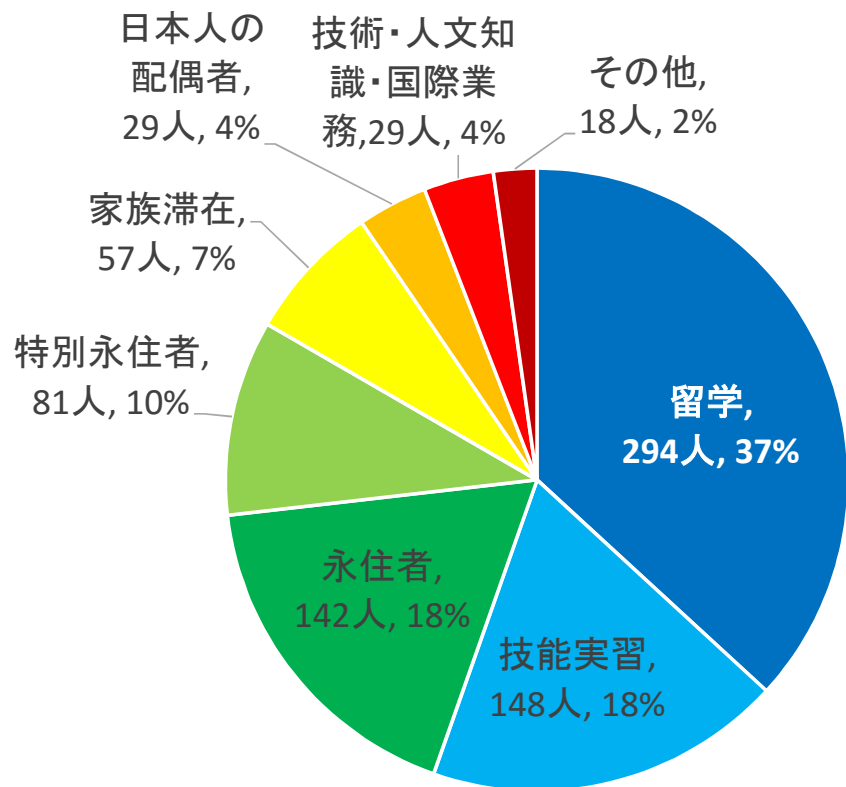
1 日本語教育の状況

(1)外国人住民数(人口の推移)

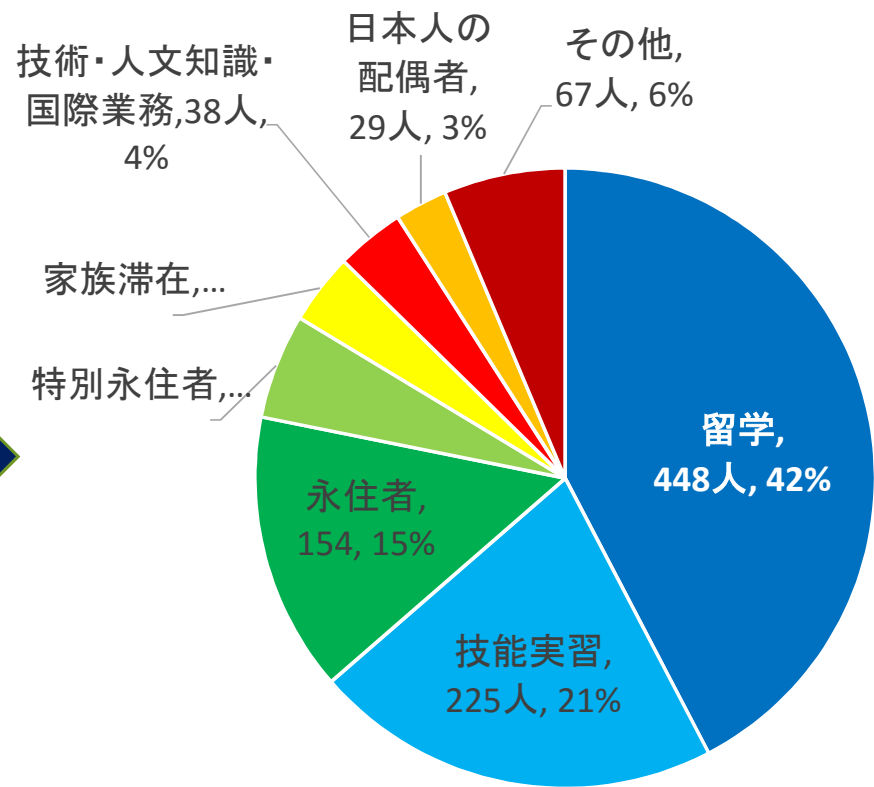
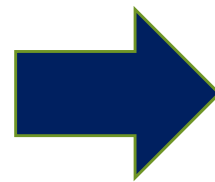


1 日本語教育の状況

(1)外国人住民数(在留資格別)



平成25年12月末: 839人



平成29年12月末: 1,058人

1 日本語教育の状況

(2)外国人に対する施策

市民ボランティアが主体となり実施している外国人のための日本語教室などの広報を行い、その活動を支援します。

平成15年度～25年度：鳥栖市国際交流基本方針

平成26年度～35年度：第2次鳥栖市国際交流（多文化共生）基本方針

互いに理解し合い、暮らしやすいまち	基本方向	基本目標	主要施策
	1 国際性を育む地域づくりの推進	1 国際理解の推進	①小・中学校における国際化教育の推進 ②異文化理解のための各種講座の開催 ③外国人の人権尊重
		2 国際交流活動の推進	①友好交流都市や諸外国との交流の推進 ②民間交流団体との連携強化 ③国際協力活動の支援
	2 多文化共生の地域づくりの推進	1 外国人も暮らしやすい環境づくりの推進	①分かりやすい生活情報の提供 ②外国人からの相談に対応できる体制の充実 ③日本語教育によるコミュニケーションの支援
		2 外国人との地域交流の推進	①外国人住民の地域活動への参加支援 ②多文化理解に関する啓発活動の推進 ③外国人住民との交流機会の創出

1 日本語教育の状況

(2)外国人に対する施策

平成26年5月、留学生に生卵等を投げつける事件が発生!!

外国人との
交流の場が
ない！

外国人に対
する理解が
ない！

多文化共生の推進

■多文化共生事業

①国際交流イベント「こくさいカフェ」(通算10回開催)

平成29年11月 5日 こくさいカフェ「グラウンド・ゴルフ」(114人参加)

平成30年 1月20日 こくさいカフェinプレスポ(373人参加)

平成30年 2月18日 こくさいカフェ大交流会(127人参加)

②市報とす「こんにちは鳥栖！」

平成28年5月から2ヶ月に1回、外国人の方に原稿を書いてもらい掲載。
(出身国の紹介、鳥栖に来た目的、鳥栖の印象、将来の夢、目標など)

③市報とす「外国人の人権を守りましょう」

平成26年5月に発生した生卵投げつけ事案への対応として、毎年6月号に啓発記事を掲載。

④市ホームページ「がいこくのかたへ」(やさしい日本語で情報発信)

生活情報や各種相談、自転車のルールなどについて、やさしい日本語と多言語で掲載。



国際交流懇談会

1 日本語教育の状況

(3)日本語教育に対する取組の状況・課題

■平成28年度まで・・・

市民ボランティアが主体となり実施している外国人のための日本語教室などの広報を行い、活動を支援する

約15年間活動されていた市内唯一の日本語教室が、高齢化などを理由に平成28年度もって閉鎖される・・・。

■課題

- ①日本語が話せない外国人に対して、日本語指導を行うところがないと、生活するうえで困難な状況になる。
- ②日本語が分からず、ゴミの分別や交通ルール等の認識の違い、生活習慣の違いなどからトラブルが発生することが想定される。
- ③地域住民とコミュニケーションが取れないことで、地域住民との共生が困難となる。
- ④就職や就学上でも支障をきたす恐れがあり、引きこもりや生活困窮者になる可能性がある。



市民団体による活動をベースとしてきたため、外国人住民の日本語学習の状況や日本語能力・学習ニーズなどの基礎的なデータがない・・・

1 日本語教育の状況

(3) 日本語教育に対する取組の状況・課題



- ・予算がない
- ・人材がいない
- ・何から取り掛かればいいのか分からない



「生活者としての外国人」
のための地域日本語教育
スタートアップの活用



疑問1: 市が技能実習生に対して日本語を教えるのは企業の利益にならないのか？

疑問2: 日本語学校との役割分担は？

疑問3: 日本語検定対策はできるのか？



日本語検定対策ではなく、生活者として必要なルールや文化を理解してもらうことで、住みやすいまちになる！

2 地域日本語の体制整備と経緯

(1)平成28年度(1年目)

■アドバイザー会議（4回）

- ・ 日本語教室開設に関する情報収集⇒閉鎖する日本語教室へのヒアリング、教室会場の視察
- ・ アンケート調査、分析⇒県や県国際交流協会、コーディネーター候補者と意見交換を行い、情報共有を図る
- ・ 日本語教室視察（岡山県総社市）⇒目指すべき教室の形について検討し、関係者と情報共有を図る

どんな日本語教室があればいい？

- ・ 日本語や生活上必要なルールや知識が得られ、災害時に対応できるよう学べる場所
- ・ 外国人住民の心のよりどころになるような場所
- ・ 楽しく交流するような場所
- ・ 交流してお互いが学べる場所

アンケート結果



どんなことに困ったことがある？

- ・ 病気になった時
- ・ 公共機関を利用する時
- ・ 買い物をする時
- ・ 漢字が分からない
- ・ 遊ぶところが分からない
- ・ 外国人に支援してくれる場所が分からない
- ・ 日本の習慣やマナーが分からない

2 地域日本語の体制整備と経緯

(2)平成29年度(2年目)

■体制整備のための調整

◎関係課等との協議や依頼

(小中学校長会、保育園、幼稚園、市内企業、健康増進課、保育園長会、子育て支援センター等)

■人材育成のための調整

◎にほんごパートナーオリエンテーションⅠ(28人応募、先着20人参加)

◎にほんごパートナー養成講座①②(20人参加)

◎にほんごパートナーオリエンテーションⅡ(4人参加)

◎にほんごパートナー養成講座①(4人参加) ※現在21人で活動

■日本語教室開設に向けた準備・検討

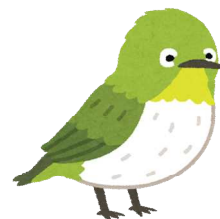
◎アドバイザー会議(4回:アドバイザー-2人、コーディネーター-8人、市担当者2人)

◎コーディネーター会議(コーディネーター-8人、市担当者2人)



2 地域日本語の体制整備と経緯

(2)平成29年度(2年目)



■日本語教室の内容

◎にほんごひろば～とりんす～試行（日曜日教室4回、火曜日教室4回）

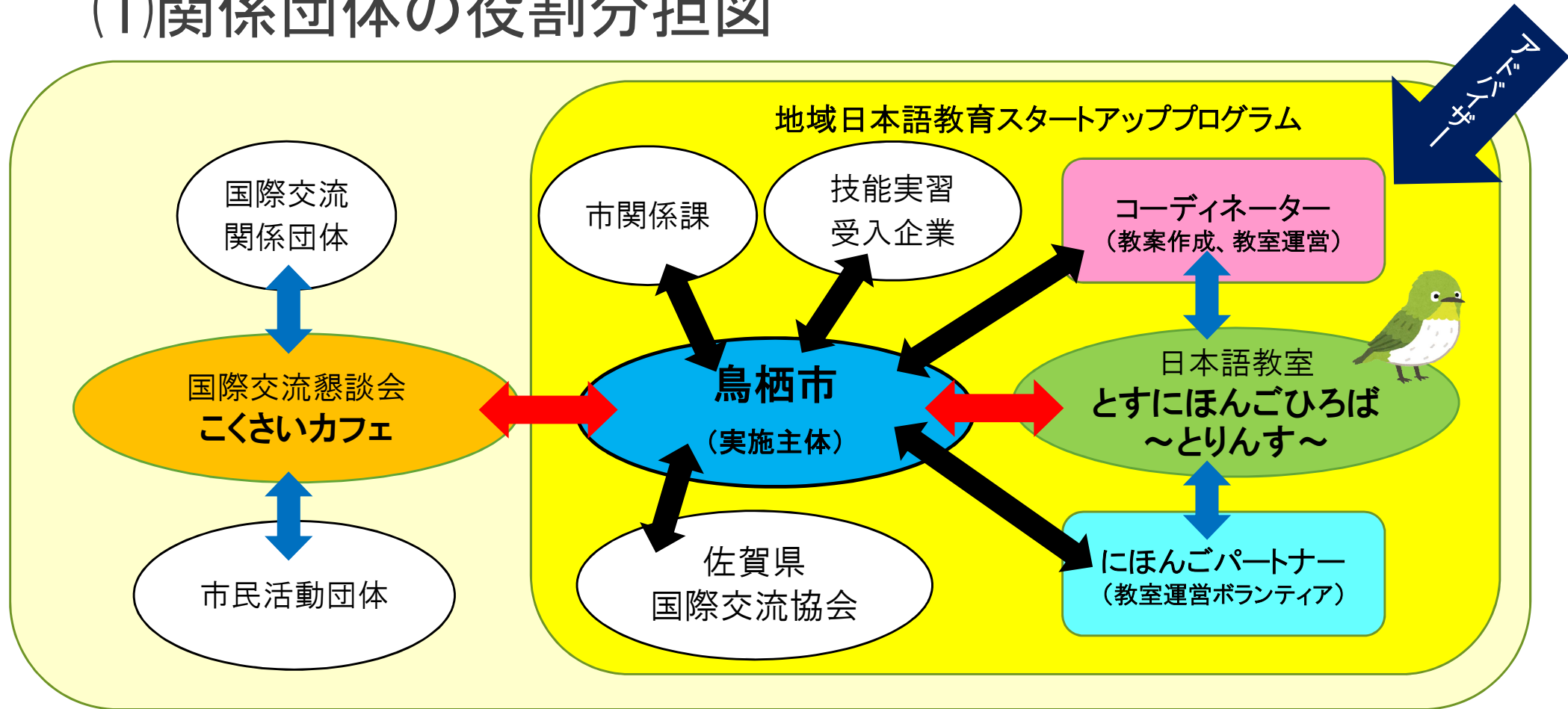
※担当コーディネーター＝担、サポートコーディネーター＝サ、アドバイザー＝ア

	日時	テーマ	学習者	パートナー	コーディネーター等
1	10/15(日)	ゴミの出し方	12人	12人	担2人、サ6人、ア1人
2	10/29(日)	自転車のルール	6人	6人	担2人、サ5人
3	11/12(日)	地震	8人	9人	担2人、サ4人
4	11/19(日)	病気	6人	11人	担2人、サ5人
5	1/30(火)	ゴミの出し方	6人	8人	担2人、サ7人
6	2/13(火)	自転車のルール	2人	9人	担2人、サ6人
7	2/27(火)	地震	4人	6人	担2人、サ5人
8	3/13(火)	病気	6人	5人	担2人、サ4人、ア2人



2 地域日本語の体制整備

(1)関係団体の役割分担図



3 地域課題と解決に向けた連携事業

①コーディネーターの主な活動

貞松明子（チーフ：カスタネット）下川有美（システム：鳥栖市）

とすにほんごひろば～とりんす～（7人）

- ・ にほんごパートナー募集（オリエンテーション、養成講座）
- ・ 学習者募集
- ・ とりんす試行に伴う教案等作成
- ・ とりんす試行運営

②アドバイザーの主な活動・助言

尾崎明人氏、土井佳彦氏、中東靖恵氏

- ・ アンケート調査（調査の必要性、調査内容、分析）
- ・ アンケート調査結果から見た教室の在り方、目指すべき方向性
- ・ 先進地の事例紹介、教室の目的、振り返りのためのポイント設定
- ・ 大学との連携、安定的な教室運営方法
- ・ 教室試行のテーマ
- ・ とりんす試行の評価・改善点

3 地域課題と解決に向けた連携事業

(3)日本語教室の内容

楽しく学び合う！



テーマ	主な内容
防災	消防署、警察署、消防署見学、地震、台風
余暇	祭、花火大会
医療	薬、病院、インフルエンザ、病院体験
交通	自転車のルール、電車の乗り方
言葉	敬語、方言
買い物	食べ物、衣類など
あいさつ	自己紹介、年賀状
公共	公共マナー
文化	お正月、もちつき、習字体験

4 今後の課題

◎学習者募集

市報やホームページ、チラシ配布等を行い、学習者を募集する。

日本語に困っている
人の掘り起こし

◎にほんごパートナー募集

市報やホームページ等で、にほんごパートナーを募集をする。

人材育成
(担い手の確保)

◎にほんごパートナー養成講座

新規パートナーへの養成講座若しくは現パートナーへのフォローアップ研修を行う。

◎やさしい日本語研修(市職員対象)

やさしい日本語研修を行い、外国人に対し、分かりやすい情報発信ができるようにする。

◎日本語教室の実施

「とすにほんごひろば～とりんす～」を年間20回程度開催する。

◎平成31年度事業計画案

カリキュラム案を作成し、安定した教室運営を計画する。

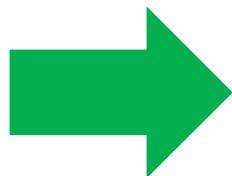
◎フェイスブックでの情報発信

やさしい日本語で活動に関する情報や、様々な情報を発信する。



4 今後の展望

- 多国籍化⇒多様化する言語
- 留学生や技能実習が多い



やさしい日本語

魔法の言葉

- いつも使っている日本語をやさしい日本語にするだけで、いろいろな国の人たちと交流ができる
- 日本にいながら外国のことを知ることができる
- 新しい知識を得ることができる

外国人
高齢者
子ども



多文化共生のまちづくり